

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600401		
法人名	有限会社 英		
事業所名	グループホームなごみの里		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字田原2185-1		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果確定日	平成23年3月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

園の周りが自然に囲まれている所
職員と入居者の仲の良さ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは小高い丘の上に建ち自然豊かな環境にある。春になると野鳥が訪れ自然のBGMに癒され、時には野生のキジを見ることが出来る。夏には自家菜園で採れた野菜が食卓を飾り、秋には柿や栗が実り皆で収穫して楽しむことができる。調査時は白梅が満開であり、ほのかに甘い香りが漂い、鶯の鳴き声も聴くことができ、五感で感じ楽しむことができるホームだと感じた。職場には休憩室が設けてあり、必ず1時間休憩が取れるようになっていることや、月1回の食事付き会議、年1回の職員旅行等、職員を尊重し大切にしている運営であることが伝わってくる。年々介護度や医療度が増えていることを受け、毎年公民館で開催される救命講習会に職員全員が受講しており、「普通救命講習修了書」の認定証を取得、急変時に対応できるようにしている。居室の表札は一律な高さではなく、利用者の目線(車椅子に座った目線等)に合わせて高さを調節し、本人が自室と分かるよう工夫している。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的にミーティングの時に理念について話し合いする事にしている。毎朝の申し送り時に理念の読み上げを行う事で理念を実践に繋げられる様にしている。	前年度に運営者及び職員で理念の見直しを行っている。「皆で話し合い作り上げた為、理念について具体的にきちんと話し合えるようになり、ケアに繋げることが出来るようになった」との声を職員から聞く事ができた。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	経営者と管理者が生まれ育った地域であり顔見知りも多く近くの農家の方に野菜を頂く等の交流もある。また近くを散歩している方が園に立ち寄り入居者の方に声をかけて頂くことが多々ある。	天気がいい日は散歩に出かけ、近所の方と挨拶を交わしている。筑豊地区最大のお祭りである神幸祭時には獅子舞の巡行があり、利用者の方々楽しみとなっている。大正琴や日舞等の地域のボランティアの方々を受け入れ、行事を盛り上げている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	経営者は地域の話し合いに参加した際に事業所についての話をしている。地域の方からの認知症についての相談等も受ける事がある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスについての話し合いは行っているが意見が中々聞き出せないで意見を言い易い話し合いが出来る様にしなければならない。	運営推進会議のメンバーは、利用者及び民生委員や組長、役場職員の参加の他、近隣に住む一般の方も加わり、客観的意見を頂いている。家族へは全員に案内状を配布し、毎回1～2名の参加がある。議事録はコピーし職員休憩室に掲示している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の職員の方に運営推進会議に参加して頂き何かあればその都度連絡を取る様にしている。	相談等あれば電話や役場に出向き、対応してもらっている。毎回の運営推進会議にも出席してもらい、情報交換しており、関係は良好である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な話し合い、研修を行うようにしている。	日中の施錠は行っていない。現在、止むを得ず抑制につながるケースがあり、介護計画の中に位置づけながら、経過観察を行っている。家族の同意を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については管理者により日々話しをする様にしている。			

福岡県 グループホーム なごみの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の時に役場の職員の方話しをして頂き、その事をミーティングの時に職員に話している。	現在、制度を活用している方はいないが、パンフレットを常設しており、質問があれば説明できるようにしている。また、運営推進会議の中でも、市町村担当者から説明してもらい、内容を職員に伝達している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行って納得・理解して頂けるまで話し合いをする様にしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時や家族の来園時に話しを聞く機会を持っている。	玄関ホールに意見箱を設置している。多数の家族が来園される敬老会では、意見や要望を聞く機会とし、家族交流会の場ともなっている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に二回ミーティングを行い話を聞く機会を持っている。	月2回全体会議と職員会議が実施されている。全体会議では代表者を交えた会議が行なわれ、代表者は直接職員の意見や要望、提案を聞く機会がある。また食事付きの会議であり、職員の楽しみのひとつとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績や勤務状況により表彰をする様にしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用についての制限はなく職員一人ひとりと話し合いの機会を持ち職員の得意分野が活かされる様に配慮している。また、休憩時間にはリラックス出来るように休憩室も設けており旅行や食事会を行い職員全員で入居者を支える関係を大切にしている。	現在18歳から50歳代と幅広く採用されており、定年制は設けていない。無資格者を受け入れ、働きながらヘルパーを取得した職員もいる。年1回職員旅行が行なわれており、福利厚生にも力を入れているところである。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育は職員の新任指導時に具体的に指導している。現任者にはミーティングの時に話し合っている。	新任時はマニュアルを使い、分かりやすく説明し指導している。常に人権を尊重する事を徹底するためにミーティング時にも話し合っている。	

福岡県 グループホーム なごみの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング等で意見を出して貰う事でお互いの技術アップが出来る様に話している。外部研修に参加した際はミーティングの時に職員に報告してもらっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に参加しており二ヶ月に一回の勉強会に参加した時に他事業所との交流を持っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思の疎通が可能であれば入居前から話しを聞く機会を設けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族に話しを聞く機会を設けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者ケアマネ職員とも良く話しをして必要な支援は何かを考え対応出来る様に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は家族の様な関係づくりを大切にしており、お互いが毎日の生活の関わりの中から共感的態度が生まれ共に喜び支えあえる関係が自然に築かれている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を声掛けしている。来園された際に近況報告をして職員と一緒に介助をしていただいている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と相談して馴染みの方に来園して頂ける様支援に努めている。	友人が遊びに来たり、友人に会いに行ったりし、馴染みの関係が途切れないように支援している。特に通院先では、以前住んでいた近所の方々との交流の場となっている。また、家族の協力を得ながらお墓参りもしている。	

福岡県 グループホーム なごみの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	席の位置等に気を使っている。入居者同士が 多く会話出来る様に日中は出来るだけ談話室にて過 ごして頂く様にしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	行事等への参加の声掛けや入所先・入院先への訪問 や連絡を持つようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者は常に人に『迷惑をかけたくない』という思い があるのでその思いを大切に少しでも自立した暮らし が送れる様に支援出来る様に努めている。	お風呂や通院時等、1対1になる場所・場面を大切に し、利用者が思いや願いを発しやすい環境づくりに 努めている。言葉で上手く表出できない利用者につ いては、表情やしぐさ等で気持ちを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や入居者との日常の会話等から今ま での暮らしを把握出来る様に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	毎日の生活状況から把握するように努めミーティン グの時等に職員全員で把握出来る様に話し合いをし ている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計 画を作成している	介護計画は日々の暮らしが入居者一人ひとりの意向 を反映し満足した暮らしが出来る様に本人、家族か らの情報や職員の意見を検討し作成している。また 介護計画は本人と家族に説明し理解を得るようにし ている。	前年度の指摘を受け、記録が充実していることが 見て取れる。モニタリングや評価もケアマネージャ ーと一緒に進んでおり、現状に即した計画がなされ ている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践 や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの個別ファイルを作成している。		

福岡県 グループホーム なごみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度に応じた支援をする様につとめている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて地域資源を活用し入居者の暮らしを安全で豊かに出来る様努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のほとんどが何らかの疾患や障害がある為定期的な通院を行っている。	昔から通院していた医院をかかりつけ医とし、信頼関係や馴染みの関係が途切れることなく、安心して医療を受ける事ができている。リハビリや透析の為、送迎及び受診支援し、受診内容はその都度家族に報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に一回来られるのでその都度情報を伝え指示をうけている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師、本人、家族と十分に話し合いをし出来るだけ早期の退院が出来るように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師への相談家族、職員との話し合いを行っているミーティングの際にも話しをする等方針の共有が出来る様に努めている。	入居時に説明するとともに、利用者の状況に応じて医師にも相談し、その都度家族に説明を行い意向の確認を行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。また年に一回救命救急の受講をしている。		

福岡県 グループホーム なごみの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。年に二回防災・防火・避難訓練を行い救命救急についても消防署の支援で地域の公民館で地域住民の方々と一緒に行っている。	年2回消火・通報・避難訓練を実施している。平成22年に火災通報装置、スプリンクラーも設置されている。代表者及び管理者宅が隣にあり、緊急時すぐに応援できる体制である。ホーム主催の救命救急についての講習会が公民館で実施されており、地域住民の参加を得ている。	民家が殆どない周辺環境ではあるが、地域への声かけを行っていく予定としており、相互の協力体制が充実していくことを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護については職員全員が遵守しなければならない事項である為新任教育の研修を大切にしている。ミーティング時にもはなしをしている。	地元利用者も多く、事業所としては親しみのある方言を使っていこうという方針であるが、方言により「尊重」が損なわれないよう注意している。また自己決定を尊重し、無理強いとならないよう支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望を表せる声掛けを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活行動についての時間配慮はしているが一人ひとりのペースを大切に本人の意向を聞くことで自己決定権が持てる様に支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは本人に任せたり職員が手伝って一緒に考えている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者の楽しみの一つでもあるので嗜好調査等を行いおやつや飲み物等にも反映させている食事介助が必要な入居者も居るが常に一人ひとりのペースを大切に支援している。	嗜好調査を行いメニューに反映させている。野菜の皮剥きや豆のツル剥きなど、出来る事は手伝ってもらっている。庭で実った野菜や柿、栗と一緒に収穫し食べることができる。また季節の花見に出かけ、外でお弁当を食べる機会が年4回程ある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師に相談し一日の食事量や水分摂取量をかんがえている。		

福岡県 グループホーム なごみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは歯科医に相談して一人ひとりの力に応じた支援を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握しなるべく自立できる様に話し合いをし支援している。	個人の排泄パターンを把握し、利用者にあった誘導をしている。テープ式オムツからリハビリパンツになった利用者もあり、失禁回数を減らし、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師へ相談をし薬や食事の工夫で対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる状況ではあるが入浴拒否の入居者が多く居り清潔の保持や全身状態の観察の点からも週二回必ず入浴出来る様にタイミングを計り一人ひとりにあった支援を心掛けている。	入浴拒否がある方も多く、一人ひとり声かけを工夫したり、気分転換を図ったりし、利用者のタイミングに合わせ支援している。また、時期によって柚子を浮かべ、季節感や香り、懐かしさを味わって頂いている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握して状況に応じた支援を心掛けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルを作成し職員全員で共有出来る様にしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で本人の部屋は職員と一緒に掃除や片付けを行っている。男性の入居者は将棋が好きなので職員と一緒にしている。女性は編み物や裁縫したり洗濯物をたたんで頂いている。これまでの経験や特技を発揮出来る様に取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム なごみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事への参加やホーム敷地内の散歩等を含め戸外への外出支援を行っている。入居者は車椅子利用者が多く外出希望は少ないので通院時に興味のある場所へ立ち寄る等している。病院のスタッフや他の通院者との会話も大切にしている。	行事として四季折々の花を觀賞しに遠出したり、洋服を買いにショッピングセンターに出かけたりしている。希望があれば個別対応できるが、外出希望は少ない状況である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	年に二回買物レクレーションを行い支払いを入居者本人にして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望された時は自由にしようとして頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はゆったりした感じで床にはカーペットを敷いている。玄関先に設置しているソファは入居者同士のくつろぎの場になっている。	皆が集う居間の窓からは庭の木々が見え、訪問時は白梅が満開に咲いているのを観る事が出来た。廊下にはファンヒーターが稼働しており、居室との温度差が出ないよう配慮されていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先のソファで過ごせる様にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとローチェストは園の備品で他は本人の使い慣れた家具やテレビ等を持ち込まれて思い思いの住まいとなっている。	本人の使い慣れたベッドを持ち込む事も可能である。箆笥や衣装ケースなど持ち込まれており、本人と家族で自由にレイアウトされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置しており歩行訓練をされたり転倒防止になる様にできている。		